

なくなったペットは

納骨してあげましょう。

古来、家族に死者が出た場合、埋葬するのが通常でありました。けっして遺体をそのまま自宅に放置することは有りませんでした。

これは衛生上の問題ももちろんありますが、石器時代から続く『遺体を見えなくする「葬る」という行為』に習うところが大きいと考えられます。

動物たちも同じく、自分の死期を悟ると物置の下や、人目のつかない所を探し、みずから姿をかくす習性があります。

全ての生き物は、この寿命を終えたなきがらを、さらされたくないという本能があります。

でも近年は、家族として愛情一杯で育てられた子達は、安心して最後の時を家族の元で迎えることが出来るようになりました。

だからこそ、残された家族はお骨を納骨してあげて下さい。

どうしてもお手元においてあげたい方は、お骨壺のまま安置するのではなく、ちゃんとかくしてあげて下さい。

和尚からのお願い



納骨とは

「骨つづつにも意味がありますが、文字通り又は文字通り所だけを焼けて戻される」と「骨内蔵がより腐りやすくなっています」。

生者必滅

「生あるものはいつか死を迎えます」動物達は皆人間よりもはるかに寿命が短い生き物達です。その短い寿命の間に、私たちと出会いそして家族となっていくのです。

会者定離

「会う者は必ず離れる定めにあるということ」家族となり楽しい時間を共に過ごし、いつまでも永遠に一緒にいたい、ずっとそばにいたいと思っけていても別れの時が訪れる。

輪廻転生

「命尽きたものが次に生まれ変わっていくこと」大切な家族と別れたとき、あの子はどこに行ったのか？あの子はどうなっていくんだろう？と悩んでも私たちにはどうする事も出来ません。

抜苦与楽

「苦しみを抜き去り、楽を与えて下さる、仏様の慈悲」我が家族のお骨を抱いても、その生前の姿はどんなに探しても見つかることもできず、苦しみと不安を拭い去ることは出来ません。だからこそ、きちんと納骨しほとけ様にお救い頂くのです。

摂取不捨

「すべての者たちを、もらす事無く救いとる仏様の誓い」力のない私たちが、何も出来ず苦しみ続けている事を、あの子たちが喜んでくれるでしょうか？大切な家族の事が心配だからこそ、お力のあるほとけ様に救いを求めてください。ほとけ様のお誓いは絶対です。必ず救い取って下さい。

一蓮托生

「同じ蓮の台に生まれること」この世ですぐに会うことは出来ません。でもほとけ様の国に生まれ、幸せに過ごしている子達の居場所を忘れなければ、逢いに行くことは出来ます。それまでの間は、お墓にお参りしいつかの再会を楽しみにご供養してください。